

# 農地利用最適化の推進

農委会名：菊池市農業委員会

## 1 地域の概要

菊池市は平成17年3月に4市町村（菊池市・七城町・旭志村・泗水町）が合併してできた「豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち」である。

熊本県の北東部に位置し、豊かな水資源と肥沃な大地を生かした農林畜産業を基幹産業としており、特に畜産業においては全国有数の算出額を誇っている。

菊池米・水田ごぼう・いちご・メロンなどの農産物も豊富にあり、中でも「七城のこめ」は、日本穀物検定協会の食味ランキングにおいて最高評価である「特A」を毎年獲得している。

また、市独自の安全・安心を示す「菊池基準」を設け、農林畜産物をインターネットショップ（菊池まるごと市場）により、全国に発信、販売している。

## 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 19人（うち、認定10人、女性5人）
- (2) 推進委員数 30人（うち、認定20人、女性1人）
- (3) 事務局体制 7人（専任4人、兼任3人）

## 3 掲げた目標

- (1) 担い手への農地利用の集積・集約化  
新規集積目標面積 200ha
- (2) 耕作放棄地対策  
解消目標面積 5ha
- (3) 新規参入の促進  
参入目標 10経営体

## 4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

### (1) 担い手への農地利用の集積・集約化

経営の廃止・縮小を希望する農業者が所有する農地や利用権設定期間が満了する農地等をリスト化し、それを基に担当地区の農業委員及び農地利用最適化推進委員による受け手へのマッチングを実施した。

区画・形状・作業効率等の条件面から受け手を見つけ難い中山間地域の農地については、簡易な基盤整備事業の活用と併せて集落営農の組織化・法人化を推進するなど、地域の実情に応じた取組みを行った。

### (2) 耕作放棄地対策

農業委員及び農地利用最適化推進委員が日頃から農地の巡回パトロールを行うとともに、事務局職員との調査を併用する。

農業委員及び農地利用最適化推進委員が個別に意向調査を実施し、遊休農地の解消

に努めた。

(3) 新規参入の促進

熊本県新規就農支援センターや市農政課、JA等の関係機関・団体と連携しながら新規就農希望者向けの相談会を開催するとともに、担当地区の農業委員及び農地利用最適化推進委員による個別相談・農地情報の提供等を行った。

## 5 取り組みの成果

(1) 担い手への農地利用の集積・集約化

新規集積面積は220haとなり、目標達成率は110%であった。また、全体の集積面積は3,351haと85.9%となった。

(2) 耕作放棄地対策

解消実績は、0.7haであり、目標達成率は14.0%であった。

(3) 新規参入の促進

新規参入者は11経営体で、目標達成率は110%であった。

## 6 課題と今後の方針等

(1) 担い手への農地利用の集積・集約化

農地利用に係る意向把握・地図による現況把握（耕作状況の見える化）・農地利用の方針策定（中心経営体への農地集積）等、「人・農地プラン」の実質化に向けた様々な活動へ農業委員・農地利用最適化推進委員が積極的に関与することによって、最終目標である「集積率80%」の達成を目指す。

(2) 耕作放棄地対策

山間地・中山間地における農業者の高齢化や後継者不足が顕著であることから、更なる遊休農地の発生が懸念される。

(3) 新規参入の促進

関係機関・団体との連携を図りながら、引き続き新規就農希望者の受入体制の強化に努めるとともに、農地・資金・営農技術等就農後のフォローアップにも注力することによって、次代の担い手の育成・確保につなげていく。

# 人・農地プランの実質化について

農委会名：合志市農業委員会

## 1 地域の概要

本市は、県都熊本市の北部に位置し、総面積5㎢キロ（東西12km、南北8km）となっている。農業は、菊池台地の水利用による畑地帯と小河川を利用した水田地帯があり、地域の特性を活かした酪農・施設園芸・水稻・葉タバコ等を基幹産業として活発な農業生産活動が行なわれている。

しかしながら、農家の高齢化・担い手不足による減少など農業を取り巻く現状は、大変厳しい状況にある。

## 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数13人（うち、認定8人、女性4人）
- (2) 推進委員数22人（うち、認定11人、女性0人）
- (3) 事務局体制 4人（専任4人）

## 3 掲げた目標

合志市市内全地区における人・農地プランの実質化

## 4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

令和3年1月、農政課と連携し、人・農地プラン実質化に向けた代表者の話し合いを開催。本来であれば地域の農業者全体に声をかけるべきではあるが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、地元の農業委員・農地利用最適化推進委員及び法人の代表者など、対象者を絞り開催した。参加者以外の担い手農家からの意見集約については、郵送にて農地引受意向調査を実施し、その中に地域における課題等について記載する自由記載欄を設け意見の集約を行なった。



【令和3年1月22日開催 人・農地プランの実質化に向けた代表者の話し合いの様子】

## 5 取り組みの成果

4日間、7回に分け合志市内全地区において話し合いを開催し、農業委員・農地利用最適化推進委員の協力もあり、実質化された人・農地プランを作成することができた。

## 6 課題と今後の方針等

人・農地プランの実質化は目標ではなく、今後の地域の農業を考えるための手段であるので、実質化して終わりではなく地域の座談会等で有効活用していただくべく周知していく必要がある。

# おおづ耕作放棄地解消活動

農委会名：大津町農業委員会

## 1 地域の概要

大津町は熊本市の東方約19km、阿蘇山との中間に位置しており、阿蘇外輪山西部に連なる広大な山林原野地帯と、それより続く緩やかな傾斜をなして広がる北部畑地帯、阿蘇山を源として東西に貫流する白川の豊かな流れによって形成された肥沃な水田地帯の中部平野、阿蘇外輪山南部から熊本空港へと連なる南部畑作台地から形成されている。

いずれも、地域の特性を生かした水稻、麦、甘藷、野菜、酪農、肉用牛、養豚、花きなど多くの農業生産活動が行われている。

## 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 12人（うち、認定7人、女性3人）
- (2) 推進委員数 17人（うち、認定4人、女性0人）
- (3) 事務局体制 3人（専任2人、事務補助1人）

## 3 掲げた目標

耕作放棄地解消面積 1.5ha

## 4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

町内の大字毎に農業委員と農地利用最適化推進委員とでチームをつくり、割り当てられた地域を巡回して利用状況を確認し、事務局へ報告を行った。



## 5 取組みの成果（できるだけ数値を用いながら、具体的に）

農地へ再生された面積が1haほどあったが、それ以上に荒廃農地の発見があったため、面積を減少させることができなかった。

## 6 課題と今後の方針等

現在荒廃化している農地は日照不足や排水不良など悪条件の農地が大半を占めており、これらをいかにして解消するかが課題である。

農地への再生が見込める農地については、利用意向調査における農業委員・最適化推進委員による訪問なども検討していく。また、再生不能となっているような農地の非農地化も積極的に進めていく。

# きくよう耕作放棄地解消運動

農委会名：菊陽町農業委員会

## 1 地域の概要

菊陽町は、熊本市の北東部に位置し、恵まれた土壌と整備された農地を活用して、多彩な農産物が生産されている。その中でも国の産地指定を受けているニンジンが特産であり、その生産量は県内1位となっている。

経営規模を拡大し他産業並みの所得をあげている優れた農業経営者も多く育ってきており、農業後継者となる若者の就農もみられる。

## 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 9人（うち、認定8人、女性1人）
- (2) 推進委員数 9人（うち、認定5人、女性0人）
- (3) 事務局体制 2人（専任2人）

## 3 掲げた目標

年間約0.5haの耕作放棄地を解消する。

## 4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

菊陽町農業委員会では、耕作放棄地解消対策として、農業委員や最適化推進委員ともに耕作放棄地解消事業の周知を行い、規模拡大や就農などの支援と併せて実施した。

## 5 取り組みの成果

令和2年度は解消事業を活用し、2経営体が就農と併せて耕作放棄地の解消に繋がっている。

- (1) 耕作放棄地解消事業活用経営体数 2件
- (2) 耕作放棄地解消事業による解消面積 1.05ha



【解消前】



【解消後】

## 6 課題と今後の方針等

本町においては、耕作放棄地は徐々に解消されてきており、今後も耕作放棄地の発生防止や解消に向けた事業の周知や活動を行っていく。